

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164

平成二十五年度総祈願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
教化必成教務員増加報恩御有志目標達成完納成就
羽村別院改修成就之御願
佛立菩薩増加、助行運動推進
役中後継者養成、法灯相統促進

する当山は一年の最後をしめ
くくるお会式として、はずか
しくないようにご奉公させて
いただかなければなりません。

廿六年度
本山御初灯明料
今からご準備を
今年も、早や三ヶ月あまり
となりました。
宗門の三大奉納金の本山初
灯明料が年頭に行われます。
例年よりも志を篤く奉納さ
せていただき、財の果報をい
ただきましよう。

十月の御総講日

- 一日 十時 御修行日
 - 七日 十時 バースデー絵講
日序上人報恩祈念
 - 十七日 九時半 開導御命日
 - 廿五日 十時 門祖御命日
 - 十五日 十時 開導御速夜
 - 廿四日 十時 門祖御速夜
 - 三十日 十時 歎尊御命日
- 於 羽 村 別 院

特別行事

二十日 十時三十分始
高祖日蓮大菩薩御会式

- 奉修導師 澤田日義上人
- 晴天祈願 十三日〜十九日
- 第一座 六時
- 第二座 九時半

会議

- 一日 御総講後 役中会議
- 廿五日 御総講後 教区長会議
- 廿七日 午後一時 参事会

10月20日(日)
10時30分

高祖日蓮大菩薩御会式 信廣門末法類巡教 奉修導師 小田原・法正寺 御高職 澤田日義上人

本年度最後の御会式は、法
類巡教として奉修させていた
だくことになっていきます。
本宗には巡教制度があり、

○本山巡教……御講有上人が
親しくお勤め下さる。

○支庁巡教……支庁内での交
流をはかるため。

○本寺巡教……本寺の御住職
をお迎えして奉修。

○法類巡教……乗泉寺の門末
(信廣会は、日飲上人の教
えをうけたお寺) 寺院は約
百ヶ寺程ありますが、末寺
同士がお互いのご弘通発展
の為に行動するもの。

冒頭にも書きましたが、法
類巡教として高祖大士の御会
式が奉修されます。

今回は、第四支庁(神奈川県)
小田原市にある、法正寺
より御高職の澤田日義上人を
お迎えいたします。

澤田日義住職は、乗泉寺で長
くご奉公され、その間、乗泉
寺布教区長(宗会議員)、第五
宗務支庁での参与、乗泉寺執
事等で大活躍され、現在は、
宗務本庁に於て「弘通審議委
員」として、宗門全体のご弘
通の中核になう立場で活躍
されて居ります。また、今回

は随伴参詣として、小諸・晨
玉寺のご住職 山崎日明化主も
御参詣下さることになってい
ます。

さて、お祖師様日蓮聖人は
弘安五年十月十三日にご入滅
遊ばされました。

法華経本門八品の教えを立
教開宗遊ばされてから、約三
十数年間というものは、まさ
に死身弘法のご生涯であり、
そのおかげにより、現在私ど
もがこの尊いご法様にお出値
でき、数々のご利益を頂戴し
ているのです。

この大恩にお報いさせてい
ただく為に奉修させていただ
くのが秋のお会式、高祖会な
のであります。

今度は、小田原・法正寺さん
小諸(長野県)晨玉寺さんから
も随伴参詣をいただくことに
なっておりますから、お迎え

他寺院参詣

十月六日 法類巡教
柴又・信立寺
当山住職ご奉修

来る六日(日)午前十一時よ
り、東京常磐布教区、柴又・
信立寺に於て、法類巡教によ
る、高祖日蓮大菩薩御会式が
当山住職奉修導師の下、お勤
まりになります。

すでに参詣案内等も配付済
みですから、参詣者は係の指
示にしたがって間違いのない
ように集合して下さい。

朝参詣強調週間

十月二日〜六日
第二連合担当

- 十月二日(水) 日野教区
- 三日(木) 立川教区
- 四日(金) 大和教区
- 五日(土) 国立教区
- 六日(日) 京王教区



本月の御妙判

すべて御弘通の為

法華経の故に罵詈雑言、誹
られて刀杖を加へられ、流罪に
られたるを以て、大聖の臂
を焼き、髓をくだき、頭をは
ねられたるになぞらへんと思
ふ。是れ一の悦びなり。

(四恩抄 423)

お祖師様が法華経の弘通を
はじめられたのが卅二歳の御
時。四十歳のときに伊豆の流
罪という法難に遭われたので
すが、この間、多くの人に笑
われ罵られ、火をつけられ、
刀杖を以て脅かされその上、

北条執権の計らいとして配
流の身となられたのでありま
す。昔から仏の正法を弘むる
為に種々の困苦を冒した人、
或いは迫害に遭つた人も少な
くないけれども、これらの人々
は自分の身を苦しめるのが即
ち仏恩に報ずる所以であると
思つて、却つて之を喜ばれた
のであります。其らの例を思
いあわせて、お祖師様はご自
分もその列に加わつた事をた
いへん喜ばれたのです。その
例の一つ二つを述べますが先

づ葉王菩薩の話があります。
菩薩は日月灯明仏の教えをう
けて菩薩行を成就したので、
その仏の恩に報いるようにさ
せて頂かなければならぬとい
うわけで、仏の塔の前で自ら
の臂を焼いてその光明を捧げ
て供養したということでした。

又、釈尊ご入滅千二百年頃、
師子尊者という人が罽賓国に
入つて、大乘の教えを弘めた
のですが、国王の忌むところ
となつて命を失つたという事
です。その時、王が師子尊者
に向かつて、
「汝ハ生死ヲ離レタト自称
シテイルガ、果シテ生死ヲ
離レタ身デアルナラバ、我
ニ汝ノ首ヲ施スコトヲ惜シ
マヌカ。」
と問かけると、尊者は即座に
「何ゾ惜シマン」と答えた。
そこで王は直ちに其の首を
刎ねたが尊者は従容として死
に就いたのでした。

この如く、葉王菩薩が臂を
焼いたのも、師子尊者の安ら
かな死というのも、多くのの人々
にふかい感動を与え、仏法の
弘通に大きな力となつたわけ
で、お祖師様も「御法ノ為ナ
ラバ、迫害、悪口罵詈、イカ
ナル怨嫉モ、ムシロ、悦ビデ
アル」と仰せられたのであり
ます。
お互い御信者は、一挙手、
一投足、一言、一行、すべて
「御法の為」と思い「御弘通の
為ならば」自分を犠牲にする
ぐらい決して惜しくないとい
う御信心を確立せねばなりま
せん。